



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (12月12日～15日)

1. イラン—イラク・ガス・パイプラインの建設 (アゼルバイジャンの15日付 TREND 通信)

ガーセミー石油大臣は、イランは現在、複数のガス輸出を契約している他、イラン—イラク・ガス・パイプラインの建設を開始する予定であるとした。「サウス・パールズ・ガス田の全てのフェーズが完了すると、現在日量3億立方メートルの生産量を、日量7億7,500万立方メートルまで引き上げることが可能である。

2. 台湾によるイラン産原油輸入再開 (15日付テヘラン・タイムズ紙)

台湾は、イラン国営石油会社 (NIOC, National Iranian Oil Company) との契約を満了すべく、11月からイラン産原油の輸入を再開した。台湾国営の CPC Corp. は11月積みのイラン産原油を200万バレル、Formosa Petrochemical Corp. も12月積みで200万バレルをそれぞれ購入する。台湾は米国から制裁適用除外を180日間得ている国の一つである。タンカーはイラン国営タンカー会社 (NITC, National Iranian Tanker Company) が保有するものを使用する。

3. 輸出の増加 (12日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

2012年1月～10月までのイランの輸出は前年比11%増である一方、輸入は前年比3%減の488億8,400万米ドル(約3,500万トン)であり、主な輸入国は、UAE (23%)、中国 (14%)、韓国 (8%) である。輸出が伸びた最大の要因は、石油化学製品の増加である。

4. 民間金融機関の対イラン中央銀行債務の増加 (12日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

民間金融機関の対イラン中央銀行債務が過去最大級に膨れ上がっていることが、最新の統計で明らかになった。本年 [ヒジュラ太陽暦 (イラン暦) 1391年 (2012年3月20日～2013年3月20日)] の第1四半期における民間金融機関の対イラン中央銀行債務残高は3.5倍以上に増加した。銀行における資産と支出 (貸出等) の不均衡が深刻な状況になっている。

5. イランの外貨準備高 (13日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

英国紙による最新レポートは、金を除くイランの外貨準備高を約700億米ドルと見積もっており、前年の796億米ドルより約100億米ドル減少した。同紙は来年のイランにおける外貨準備高を50億米ドル減の646億米ドルと予測している。

5. 留学生への外貨供給（15日付イーラーン紙）

為替センターのキャリミー報道官は、10月10日～12月12日の間にテジャーラト銀行を通じ、留学生に対して1億89万4,931米ドルの外貨を供給したと発言した。

6. 自動車生産量の減少（12日付ドンヤーイエ・エグテサード紙）

イランの自動車統計によると、2012年3月～10月までの自動車生産量が前年同期比55%の減少となっている。純国産の自動車は、前年同期比で45.4%減（本年71,732台、前年159,115台）であり、イランの自動車業界において深刻な問題であることが明らかである。

7. 石油収入に関する新たなアプローチ（12日付イーラーン紙）

ここ数年で、石油収入に関する政府による3つの管理アプローチが新たに登場した。

- (1) 対外投資：国家開発基金は、欧州およびアジア諸国にて複数の投資案件交渉の存在を明らかにしている。
- (2) 来年度〔ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1392年（2013年3月21日～2014年3月20日）〕予算における石油収入依存度の40%削減：第5次五カ年計画終了時（2016年3月）までに、国家予算の石油依存度をゼロにする。
- (3) 石油産業への国民の参加：個人向けに石油債（プロジェクト投資用ファイナンス）を販売することで、国民が石油産業に関わり、石油に対する見方を変えた。

8. 健康保険・年金制度問題（13日付イラン労働通信）

組合・労働・福祉省のエマーディー次官は、政府が適切な措置を採らなければ、健康保険および年金制度が、イランにとって将来危機的な問題になる恐れがあると述べている。イラン公務員年金基金（CSPF）の発表によると、2010年における年金受給者はわずか100万人超であったが、現在、60歳以上人口は約500万人を数え、イランのメディア各社によると現在40歳以上の人口は2,600万人に上り、急激な高齢化が進みつつある。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799